

8月17日（日）洗足学園創立90周年記念 洗足学園中学高等学校コンサートがサントリーホール 大ホールにて開催されました。

当日は1600名以上の来場者をお迎えし、荘厳かつ盛大なコンサートとなりました。

第1部では吹奏楽部が「行進曲『勇気のトビラ』」、「巴里の幻影」、「ユーロビート・ディズニー・メドレー」の三曲を洗足学園音楽大学特別教授・芸術監督で世界的な指揮者である秋山和慶先生の指揮のもと披露しました。部員約130名の代表としてコンサートに臨んだ51人のメンバーは日頃の練習の成果を遺憾なく発揮していました。

第2部では弦楽合奏部が登場。弦楽合奏部は被災地でのボランティア演奏やディズニーランドでの演奏など精力的に活動し、今や116名の部員を擁する団体となりました。今回は選抜メンバー57名が秋山先生指揮のもと「セント・ポール組曲 作品29-2」を演奏いたしました。

第3部では6年前に結成し、既存のクラブの枠を超えて誰もが入部できる特別クラブである「洗足学園フィルハーモニー管弦楽団」の演奏が行われました。通称Sオケと呼ばれている洗足学園フィルハーモニー管弦楽団は通常のクラブと兼部している生徒も多く、週一回という限られた時間の中での活動ではありますが、160名を超える団員が所属しております。コンサートでは「バレエ『眠れる森の美女』作品66より ワルツ」「ヴァイオリン協奏曲ホ短調 作品64より 第1楽章」「オラトリオ『メサイア』より ハレルヤ・コーラス、アーメン・コーラス」を秋山先生の指揮のもと演奏しました。

「ヴァイオリン協奏曲ホ短調 作品64より 第1楽章」では、本校卒業生で第8回ソウル国際音楽コンクールにおいて日本人として初めて、史上最年少で優勝した毛利文香さんによるヴァイオリンの独奏がありました。毛利さんが奏でるヴァイオリンの美しく素晴らしい音色に会場の誰もが大きな拍手を送っていました。

「オラトリオ『メサイア』より ハレルヤ・コーラス、アーメン・コーラス」では合唱部、在校生の保護者、卒業生、卒業生の保護者、教職員、合わせて約400名の大合唱団「コロ・ヴェルデ」が華を添えました。

オール洗足で取り組んだ90周年記念コンサートは、演じた者・聴いた者の全ての心に残る素晴らしいコンサートとなりました。

